

色はこんなに働きもの!

色は見た目に美しいだけではなく、私たちの知らないところでさまざまな働きをしています。色彩検定3級の勉強のスタートは、この色の働きを理解し、覚えるところからはじめましょう。

色の7つの働き

ふだん私たちは無意識のうちに、色の働きによって感性を揺さぶられたり、物事を判断したりしています。色の働きにはいろいろなものが考えられますが、色彩検定では、①**美しさや心地よさ**、②**イメージ**、③**象徴**、④**統一**、⑤**区別**、⑥**見やすさの調節**、⑦**アピール**、の7つのキーワードと以下の代表的な事例とをセットで覚えておけばOKです。

美しさや心地よさ

青い空や海、新緑の木々などの色を目にしたときに感じる美しさや心地よさ。色がもたらす感動は、私たちの生活を豊かにしてくれます。



自然界の色(青い空と海)

イメージ

色は、イメージを変える効果があります。たとえば、同一の風景でも、時間帯や季節の違いで色が変化し、それぞれ異なる印象になるのが好例です。



季節の色(春)

象徴

象徴のわかりやすい事例は国旗です。理念や理想、民族の団結などを使用する色によって表しているものが多くあります。



各国の国旗の色

統一

家の屋根や壁の色がそろっていると、その地域のまとまりを感じます。ユニフォームのように、ある団体に所属することを印象づける効果もあります。



ユニフォームの色

区別

スポーツのユニフォームは、色の違いでチームの区別が明確になります。また、鉄道の路線図は、複雑な路線を色分けで区別しやすくしたものです。



路線図の色



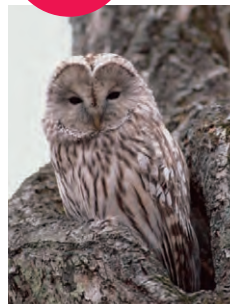
ユニフォームの色



ユニフォームの例は、統一と区別の2回登場します。見方を変えることで、両方にあてはまることなので、注意して覚えておく必要があります。

見やすさの調節

動物の保護色(周囲の色と同化する)や威嚇色(周囲から目立つ色)の例でわかるように、色とその組み合わせを変化させることで、あるものを見えにくくしたり、逆に見えやすくしたりすることができます。色は見やすさを調節することができるのです。



保護色



威嚇色

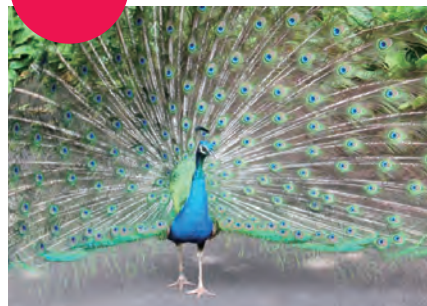


保護色と威嚇色は、統一と区別、のちに登場する共通性、対照性ともつながる大事なキーワードです。しっかり覚えておいてください。

- ・保護色=統一する、同化させる、なじませる→共通性
- ・威嚇色=区別する、変化をつける、目立たせる→対照性

アピール

クジャクの雄は、派手な色の羽を広げて、雌にアピールするといわれています。このように、色には強い印象を与えるアピール効果があります。



クジャクの雄の羽の色



カラーコーディネーターの現場から

色の働きには、ほかにさまざまなものが考えられます。たとえば、カラーコーディネーターとしての私が考える色の働きは「色で商品の売上げを上げることができる」「色でその人の第一印象をよくすることができる」などがあります。また、主婦として考えた場合は「つたない料理も演出の色どりで美味しそうに見せられる」「狭いマンションも色で広く見せられる」などが思い浮かびます。皆さんも、色の働きについて思いをめぐらせてみては?

無彩色と有彩色

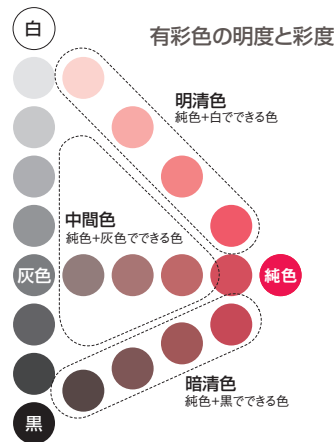
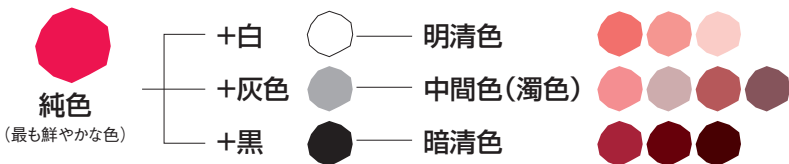
色の三属性のほかに、「色みがあるのか?ないのか?」で色を分類することもできます。色みや彩度を持たない色(むさいしよく)を**無彩色**、色みや彩度を持つ色(ゆうさいしよく)を**有彩色**と呼びます。無彩色は、白、灰色、黒のことで、有彩色は、それ以外のすべての色のことです。モノクロ写真や白黒コピーが無彩色、カラー写真やカラーコピーが有彩色といえイメージしやすいでしょう。有彩色は三属性をすべて使って表しますが、無彩色には色相と彩度がないため、明度だけで表します。



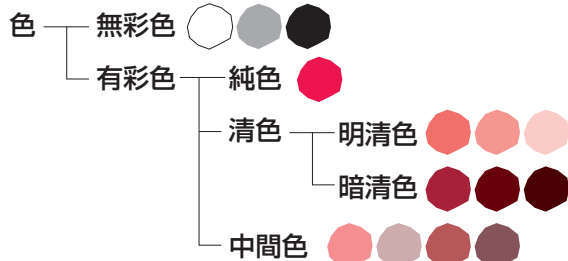
有彩色を分類する

有彩色は、**純色**、**明清色**、**暗清色**、**中間色**のように、さらに細かく分類することができます。純色とは、赤や青といった有彩色の中で最高彩度の色のことで、この純色に白だけを足した色を**明清色**、黒だけを足した色を**暗清色**といいます。中間色は、白と黒の両方(=灰色)加えた色で、濁ったように見える色のため、**濁色**ともいいます。

有彩色の分類



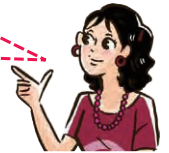
色の分類一覧



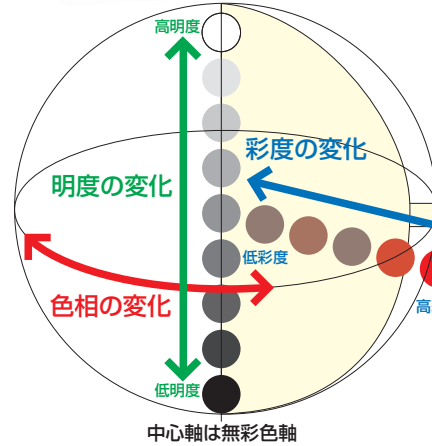
色立体と等色相面

色立体とは、色相、明度、彩度の三属性の関係を三次元の立体で表したものです。縦軸が明度、中心の縦軸が**無彩色軸**、横軸が彩度、円周が色相となっています。色立体は、すべての色を空間内に位置づけられる、いわば立体的な色の地図ともいえるべきものです。この色立体を中心軸に沿って垂直に縦に切った断面を**等色相面**といいます。無彩色軸を中心に左右の等色相面は補色の関係の組み合わせになっています。

色立体と等色相面の構造をすぐに理解するのは難しいと思いますが、この先の学習で必須の知識となる大変重要な部分です。文章で考えるよりも、下の図を頭に入れるようにしましょう。

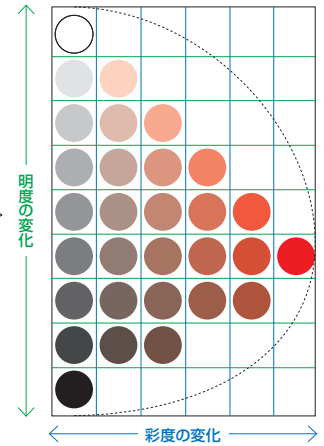


色立体



等色相面

色相は同じで明度と彩度の変化を、一つの面で見ることができる。色相の数だけある。



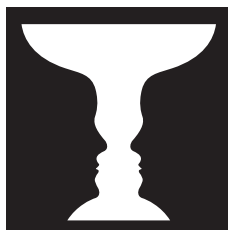
色立体の切り方によって表れる面が変わる



同じ色の組み合わせでも、「何色を」「どこに（位置）」「どのくらい（面積）」置くのかによって、全体の印象は大きく変わります。優れた視覚表現のために、構成について学んでいきましょう。

主となる図と背景となる地

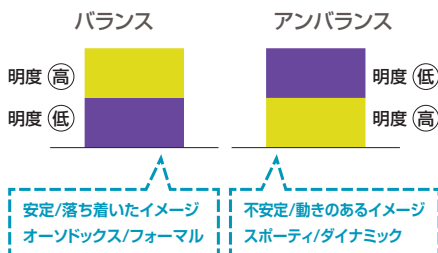
デザインなどの視覚表現において、主体となるものを**図**、背景となるものを**地**といいます。美しい構成を考えるには、図と地の関係を明確にし、図がより効果的に感じられるように、地をデザインする必要があります。



ルビンの壺
図と地の関係があいまいな例。見方によって白い壺（つば）に見えたり、黒い2人の顔に見えたりするので、判断は見ている人にゆだねられる。

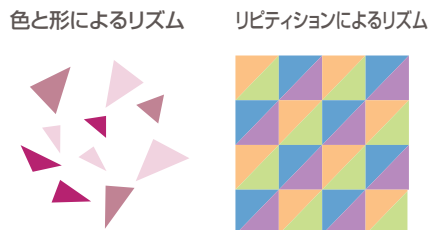
バランスの演出

それぞれの色がもつ強さや重量感を利用して、画面の上に軽い色を、下に重い色を配置することで、安定感を演出することができます。逆に上に重い色、下に軽い色を配置すると、動きのあるイメージになります。



色と形によるリズム

同じような色と形を繰り返し使うことで、色の**リズム**を生み出すことができます。また、複数の色をひとつのユニット（単位）として繰り返し反復することで、一定の秩序やリズムを生み出す手法を**リピティション**といいます。



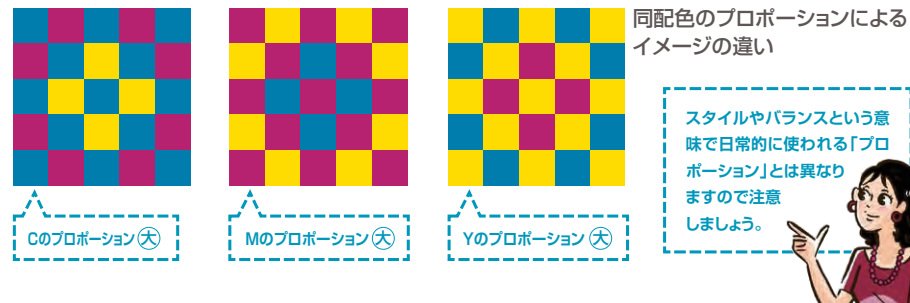
コントラストによるメリハリ

コントラストとは、**対比**、**対照**という意味。対照的な色相や対照的なトーンなど、反対の要素を組み合わせることで、画面にメリハリを与える手法です。類似性の強い配色でも、アクセントカラーやセパレーションを使うことで、コントラストを生み出すことができます。



プロポーションで変わるイメージ

デザイン用語として使われる**プロポーション**は、**比**、**割合**のこと。そのものが、全体や他のある部分に対して、どの程度の割合になっているかという意味です。色彩の場合は**色の面積比**にあたり、同じ色を使っている場合、このプロポーションによってイメージが大きく変わります。



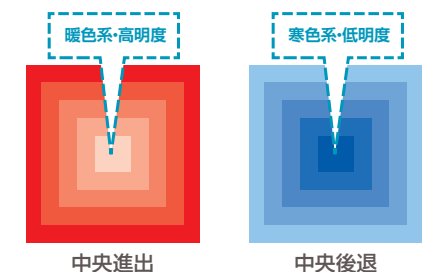
色による立体効果

「光（太陽光や室内照明）は上から降りそぐ」という、普段見慣れた明暗の関係に色に結びつけると、凹凸感のある**立体効果**を生み出すことができます。上から光が当たると、凸面では上が明るく、下が暗く、凹面では上が暗く、下が明るくなります。有彩色でも同様の効果をつくることができます。



色による遠近効果

近くのものの色ははっきり見えるが、遠くなるにつれて色がかすんでいき、青白く見える——こうした自然界の原理を利用した遠近感の表現を**空気遠近法**といいます。近くのを濃い色ではっきりとした輪郭で描き、遠くのを淡くぼやけてトーンで描くことで、距離感を表現することができます。奥行き感の表現にはトーンのグラデーションや、進出色・後退色（詳しくはP108参照）を活用すると効果的です。



第9日目 練習問題

問題(1)

次のA～Eの記述のうち、最も適切なものを、それぞれの①②③④からひとつ選びその番号をマークしなさい。

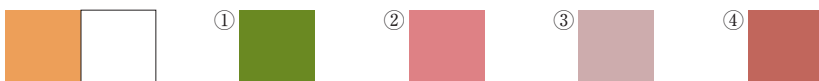
- A 下の色の右の空白を埋めて、隣接色相の類似トーン配色となる色。



- B 下の色の右の空白を埋めて、類似色相の対照トーン配色となる色。



- C 下の色の右の空白を埋めて、中差色相の同一トーン配色となる色。



- D 下の色の右の空白を埋めて、対照色相の類似トーン配色となる色。



- E 下の色の右の空白を埋めて、補色色相の対照トーン配色となる色。



A④ B③ C② D② E③

- ★A 左の色はv13、各選択肢は①lt12⁺、②dk14、③b10、④dp14。vトーンと類似トーンになれるのは、b、s、dpトーンの3つですが、実質sトーンは色刷り問題に登場しないので、bとdpトーンの2つのみ押さえておけばOKです。
- ★B 左の色はb12、各選択肢は①d14、②sf10、③dk14、④dp12
sfトーンとdトーンを使って対照トーン配色は作れませんので注意です。
- ★C 左の色はsf6、各選択肢は①dp10、②sf2、③ltg2、④d4
- ★D 左の色はp10⁺、各選択肢は①sf4、②ltg2、③lt22⁺、④p2⁺
- ★E 左の色はv7、各選択肢は①Gy-7.5、②sf18、③ltg18、④d20
- ★色の差を見極めるのが難しかったかもしれませんが、実験では色の微差を選ばせる問題はそれほど出題されませんので少し安心してください。しかし、今のうちから色を見極める力を養っておくことはとても大切です。本番がラクに感じますし、何よりその後の仕事においてとても役立ちます。

